

都市公園における生物多様性への取り組みと地域連携

株式会社 日比谷アメニス
河原典生 齋藤桃子

都市における緑地は、景観を美しく彩るだけではなく、都市住民が自然と触れ合い、その恩恵を享受するための重要な接点となっている。近年の都市緑地法の改正や生物多様性の経済価値を認識する動きの広がりなどの社会的背景を踏まえ、ますますその重要性に注目が集まっている。

日比谷アメニスグループでは「花とみどり」を扱う企業として令和五年に環境経営を進めるための環境方針を策定した。その中でも「自然再興」を重要な柱の一つとして位置付けている。都市における緑地が生態系の一部として機能することも重視し、設計から管理に至るまで生物多様性の損失を止め、回復させるための取り組みを推進している。また、そこから得られる自然の価値を共有し、人

と自然が共生する社会の実現に貢献することを目指している。本稿では、弊社グループで指定管理を行っている猿江恩賜公園での取り組みについて紹介する。

猿江恩賜公園の概要

猿江恩賜公園は、昭和七年の開園以来、地域住民にとって自然との触れ合いの場として長く親しまれてきた。東京都江東区に位置し、新大橋通りを挟んで北園と南園に分かれている広大な都市公園である。北園はテニスコートや広場、遊具が整備され、開放的で活気に満ちた空間が広がっており、南園は野球場のほか、芝生広場や庭園が整備され、樹林や草地、上池・下池と呼ばれる水辺を有する落ち着いた空間となっている。

本公園での生物多様性保全の取り組みは、東京都の施策の一環として進められてきた。平成二六年度の「東京都長期ビジョン」における「生物多様性保全に向けた環境整備と裾野の拡大」に基づき、本公園を含む三一の都立公園で「多様な生物が生息する都立公園づくり」が推進されている。

多様な生物が共存する空間づくり

本公園は平成二九年度に「生物多様性保全管理計画」が策定され、特に南園において令和四年から五年にかけて多様な生物が共存できる環境の整備工事が行われ、その後順応的な管理が進められている。

南園の樹林地では、日照を確保して下草の育成を促進するために樹木の間引きや強剪定を行った。また、土砂流出防止のために「粗朶柵」を設置した。粗朶柵は落ち葉を受け止めて湿潤な表層を維持し、カエル類や昆虫類の隠れ家やすみかとしての機能を備えている。上池の護岸は一部が垂直な石張りで、池底も単一なゴロタ石敷きであったため、池で活動できる生物が限られていた。そこで、池底に

傾斜を設け、湿性植物を植栽し、湿地から水辺へと自然な移行帯「エコトーン」を形成することで水生昆虫や魚類、水辺の鳥類が利用できる環境整備を行った。

下池は、西側ではヨシの過密な生育によって閉鎖的になっていた水面を改善するために一部のヨシを除去し、湿地性昆虫の生息に適した開放的な水面を取り戻す工事を実施した。東側では、カワセミの営巣地となる垂直の土手を造成し、採餌のための止まり木を設置した。

下池の西側には緩傾斜の湿性草地在が広がっており、ニホンアカガエルなどカエル類の移動経路となっていたが、草丈が低くカエルの隠れる場所が少ないことや公園利用者



猿江恩賜公園(南園)の概略図

の踏圧による乾燥化が進行していることが課題となっていた。そこで草の刈高を段階的に設定する計画とした。また、公園利用者が草地へ直接立ち入る範囲を限定し、踏圧の影響を緩和させるために木道を設置した。さらに外来種駆除対策として「池干し」を実施し、アメリカザリガニやウシガエル、カダヤシ、外来のカメ類などの駆除を行ったほか、オオフサモやウチワゼニクサなどの駆除にも取り組んだ。

生物多様性の保全と順応的管理

竣工後の保全活動として引き続き右記の外来生物の駆除も積極的に行っている。また、オオカワヂシヤは種子が散布される前に随時抜き取りを行うとともに、高温水を散布する温水除草による対策も試みている。ウチワゼニクサは遮光シートで覆い、光合成を阻止した結果、大幅に減少させることができた。湿性草地については刈高を場所に応じて細かく設定し、多様な環境を創出するための管理を始めた。

こうした取り組みは環境の変化に応じて適宜適切な内容に調整する必要がある。本公園においても

定期的なモニタリング調査を実施し、その結果に基づいて管理方法の見直しを行っている。調査では植物、哺乳類、爬虫類、両生類、鳥類、水生生物、昆虫類、クモ類、陸産貝類と幅広く記録しており、令和五年の秋・冬には計一七五科三八八種が確認されている。

地域社会とともに歩む

猿江恩賜公園の生物多様性保全事業は、単なる環境整備にとどまらず、地域社会との協力を通じて人と自然との共生を実現する取り組みである。地域住民や学校、研究機関、自治体など、様々なステークホルダーとの連携を強化し、公園を自然と触れ合う場や自然を介して人と人がつながる場として提供している。

例えば、施工前には近隣住民の方々と高校生と現況調査を実施し、工事中にカエルの通り道を妨げないための工夫を行った。また、施工期間中には、近隣住民や教育機関と協力し、池の水抜きを生き物の救出イベントとして実施したり、近隣の小学校を対象に生き物について興味をもってもらうための課

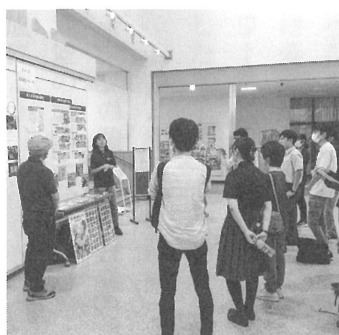
外授業を開催したりした。さらに、施工後には江東区で開催されている「生物多様性フェア」に参加するなど、公園における取り組みの情報発信・収集に努めている。

おわりに

猿江恩賜公園での生物多様性保全事業は、都市における自然環境の再生と維持、さらには地域社会との協力を通じた持続可能な未来づくりの一端を担っている。私たちは自然との共生を目指す取り組みを続け、次世代に向けた豊かな自然環境を守り育てていく責任を果たすため、この事業を通じて得られた知見や成果は他の公園や地域にも展開し、生物多様性保全の輪を広げていくことが重要であると考えている。これからも地域社会とともに学び、挑戦し続けることで、人と自然が共生する持続可能な都市の実現に寄与していきたい。

河原 典生 ●かわはら のりお
二〇一三年株式会社日比谷アメニスに入社。二〇一四年株式会社エコルに転籍。二〇一六年から日比谷アメニス環境緑花研究室と兼任。樹木医。

齋藤 桃子 ●さいとう ももこ
二〇二二年株式会社日比谷アメニスに入社、東京東部エリア運営部 東部公園管理課で都立尾久の原公園・東綾瀬公園・中川公園の利用促進担当。二〇二三年から同課生物多様性責任者と兼任。



生物多様性フェアでの猿江恩賜公園の取り組み紹介



小学生に向けた課外授業



近隣住民や教育機関との生き物救出イベント